



【特別審査員賞】

うつのみや ちずこ
宇都宮 千瑞子

泰郎さん、あなたと一緒にあって今年で44年になりますね。

そんなに月日が経ったなんて思いもしませんでした。

けれど今は、一日いちにちが早く感じられ最も悩み、不安な気持ちで過ごしています。

泰郎さんが腎不全となり私がドナーとなってもう、10年が過ぎましたね。

あの時以来、私とあなたは体まで一つになった思いで過ごしてきました。

そして、この日々が、まだまだ続くと思っていました。希望を持っていたと
言うべきかもしれません。

その私の望みはあなたが先月、肺がんの告知を受けた時に断ち切れました。

幸いステージは1ですが、大病をした体に大きな手術は耐えられるのだろうかと、
私の中で苦しい思いと不安が渦巻きます。その上に、移植をしたからと言って糖尿病が
治った訳ではないので、血管のもろさまで思い、もう絶望感が溢れてきます。

告知を受けてから、早一ヶ月が経ちますね。

今は、経過観察にしていますが、ねえ、泰郎さん、これから先どんな困難が待っていようと、
また2人で前を向いて歩いて行きませんか。そうしたいのです。させて欲しいのです。

きっと、3人の子供たちも同じように前を向いて欲しいと願っているはずです。

ゆっくりと、しっかりと、目の前の急な坂を上りましょうよ。

きっと、頂上では令和の穏やかな光が当たると信じて一。

返事はいいません。私の手を握り、繋いでくれればそれで、いいですから。

(愛媛県/66歳/女性/主婦)



今一番気になっている、気がかりな人だから書きました。